



ご挨拶

日本バルカー工業株式会社
代表取締役社長 兼 CEO

瀧澤 利一

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。読者の皆さまには本誌をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は中東各国において政権交代が続く中、ギリシャ債務危機に端を発した欧州各国への信用不安が広がり、世界経済は誠に不透明な中で、推移いたしました。日本国内におきましても、3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う福島第一原発事故は、日本人とその生き様を、根源から見直す機会を与え、また経済活動にもかつてない影響を及ぼすこととなりました。

国内外に顕在、潜在する危機に対し、我々企業活動に従事する者は、それと真摯に向かい合わざるを得ない時が来たと考えます。復興諸施策効果が緩慢な中、足踏みをしつつ新年を迎えることとなりましたが、「危機と変化」に満ち満ちたこの年をバルカーグループは満を持して、正面から立ち向かってまいります。

これまでもグローバル競争を勝ち抜くため、差別化を意識した業務展開を推進してまいりましたが、今後はより広範なリスクマネジメントに傾注し、この激動する環境変化に挑んでまいりたいと考えます。昨年末より手がけました半導体分野における環境ビジネス、より広範な中国企業との資本業務提携の強化など、成長分野に対する投資は活発化させておりますが、今後とも事業基盤の拡充をますます加速してまいり所存であります。本年度は中期経営計画NV・S5の最終年度であり、これを完遂するとともに、4月からスタートする新たなNV・S6に沿って更なる飛躍に向けて進んでまいります。

そのためにも、本誌でご紹介させていただきましたように、バルカー独自の技術を最大限に活かし、バルカーならではの新製品、新技術、差別化したサービス力で、お客様や社会に貢献してまいらねばならないと考えます。本誌が皆さまのお役に立つことができますように、今後ともタイムリーに技術情報を提供させていただく所存であります。

東日本大震災に纏わる被災者全ての方々に心よりのお見舞いを申し上げ、読者の皆さまの益々のご発展を祈念し、本年のテクノロジーニュースのご挨拶に代えさせていただきます。